



学力向上研修会

8月11日(水) オンライン講演

演題「今求められる学校教育の姿 ―すべての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びについて―」

講師 上智大学 総合人間科学部教育学科 教授 奈須 正裕 先生



学習指導要領公示後に、中教審答申が示されました。改めて、今学校教育の目指すべき姿とは何ですか。

今求められる学校教育の姿とは…

求められていること①「すべての子供たちの可能性を引き出す」
＝子供たちの多様性に応じる←基本的人権としての発達権や学習権の全面的保障
↑外国にルーツをもつ子供、特別な支援を必要とする子供、不登校児童生徒等

求められていること②「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
＝今回の学習指導要領の理念を着実に実行するために必要な手立て



奈須先生

個別最適な学びの2つの意味

- ①一人一人に合った教材・学習時間・方法等の柔軟な提供
- ②自分に最適な学びを自力で計画・実行できる子供の育成

- ・一人一人の子供に必要なものを必要なタイミングで必要なだけ
- ・最適な学び方を子供自身が気付く、見いだす姿

このような学びを積み重ねることが大切

➡子供たちに、自分たちで学ぶ力が付いてくると、協働的な学びも主体的に進められるようになる。



「個別最適な学び」を推進していくことがポイントとなりますね。このような学校教育のもと、子供のどんな姿が期待されているのですか。

自律的に学び進められる子供の育成

昨年度のコロナ禍、教師の指示がなくても、自宅にしながら自分たちで計画を立てて、着実に学び進める子供たちがいました。このような子供たちは、学びに向かう力が身に付いていると言えます。まさに、これからの時代に求められる学習者像です。

「自律的に学び進められる子供」とは…

- 1 自ら計画し、学び進められる子供
- 2 自分の個性・持ち味・強み・弱みを判断できる子供
- 3 自己調整しながら学べる子供

・教師が常に横にいても

・「メタ認知」を働かせて

- ・自らにとって最適な学びとは何か
- ・自分はどんなふうになればうまく学び進められるか
- ・自分に合った学び方、スタイル、時間の使い方とは何か

子供は生まれながらにして有能な学び手＝アクティブ・ラーナー

私たち教師が一生懸命に教えても、子供が学ばなければ意味がない
→大事なものは「教える」という感覚を一旦置いて、「子供が学ぶ」という事実軸足を置いて考えること



奈須先生

学ぼうとする子供一人一人に寄り添う支援の例



自律的に学び進められる子供を育成するために、どのような取組の例がありますか。

○子供が学びたくなる環境をつくる

自律的に学び進められる子供を育成するため、「適切な学習環境」を提供することは有効です。「教えないと学ばない」ではなく、「適切な環境さえあれば、子供は環境に関わってどんどん学んでいく」という子供観に転換する必要があります。

〈6年生社会科の例〉

子供が利用したい時にいつでも利用できるよう各資料やデジタル教科書等のコーナーを設置。教師のタイミングで子供に資料を提示するのではなく、子供一人一人の関心や学びのスタイルに合わせ、活用できるようにする。



大型資料の掲示やデジタル教科書コーナーの例（講演資料より）

○子供が見通しをもって

学べるようにする

子供が自分で計画を立て、自分のやり方やペースで学び進めていく学習を取り入れることも有効です。その際、単元の目標や学習内容、時数等を「学習のてびき」として、子供に配布し、「何を、なぜ、どのように学ぶのか」の情報を提供し、見通しをもたせることが大切です。

「学習のてびき」の例 →（講演資料より）

学習のてびき	教科名	「単元名」
目標	名前	(○時間)
・○○○や△△△について調べる。	★チェック1	学習カード提出
・◇◇◇を作る。	★チェック2	作品の提出
・□□□について分かる。	★チェック3	チェックテスト
学習の流れ		
①○○○について調べる。	教科書	学習カード
②△△△について調べる。	PO-○	1
③…を調べ、…について考える。	PO-○	2
★チェック1	学習カード1～4を先生に見せる。	3・4
④◇◇◇を作る。	PO-○	5
★チェック2	作品と学習カード5を先生に見せる。	
⑤チェックテストをする。	チェックテスト	
★チェック3	チェックテストを先生に見せる。	
～ここまでは、必ず終わりましたよ～		
☆～の○○○について調べよう。		
☆身の回りにある○○○や△△△を見付けよう。		
☆「◇◇◇カード」を参考にして、…を作ってみよう。		

利用可能な時数

単元の目標と構成

評価＝チェックも多様な方法で

学習の流れと利用可能な学習材等

活動的・体験的な学びも取り入れる

早く進んだ子供向けの発展学習

奈須先生は、「個別最適な学びは決して新しい学びではなく、以前より行われてきた」ことや「自律的に学び進めることは低学年からでもできる」ことを繰り返し話されました。

「自律的に学び進められる子供の育成」という視点で、日頃の授業を振り返ってみませんか。

